

五月の保育

生活訓練

倉橋惣三

入園以來一ヶ月、だいぶ幼稚園の生活になれて来た。今までは主として新しい生活になれさせる爲に、無理のないやうにどの心づかひが多かつた。その爲、訓練といふよりも、多少幼児の心を迎へるところもあつた。もうそろそろ訓練の方針によつて指導してゆくがよからう。それに、一ヶ月たつて、幼児の方でも、そろそろ氣らしく、銘々の地金を出して来るかも知れない。此の一ヶ月注意し來つた各自の個性がふたぎあけて来るかも知れない。一體、訓練は、個性に基いて行はれてゆかなければならないものである。それがないと、見當違ひが行はれるかも知れない。この點で此の五月は大切な、訓練の出発期でもある。

地金の一つとして、わがまゝが出る。勿論そのこと自身に大して悪性がある譯ではないが、何ことも自分先位に、人をおしつけて、勝手なふるまをうとする出鼻は、初めから然るべく抑へることは必要である。

ところで、斯ういふことは、幼児一人々々のことでなく、一般のことであり、豫め分つてゐることであるから、出鼻といつても、出た後から抑へるのではなく、初めから、その出ないやうに用意して置くべきである。そこが生活訓練の生活訓練たるところである。

生活訓練とは、生活を訓練する、生活の中で訓練する、といふ二つの意味の他に、生活によつて訓練するといふ意味をもつ。生活によつてといふことは、生活の中でといふことゝは別に、生活の形式を利用してといふことが主である。「保育案の實際」の五月始めのところに、「大勢同時の場合には順に並んで先を争はぬこと」とあるが、此の意味は、大勢同時になつた時の生活の仕方を訓練するだけでない。幼稚園では大勢同時に事をするのが常であり、従つて、その生活形式によつてこそ、強いて抑へずとも此の訓練が出来る譯なのである。勿論、それでも尙、先きを争ふわがまゝが出ることも少なくならう。その時は抑へるといつた必要も起るであらう。しかし、皆同時に事をすることそのことの樂しさや、目的や、法則やが豫め巧妙に傳へられたら、その生活形式そのものが、個人生活形式を先づ抑へる筈である。

同じ月に「仕事の時紙の切屑を床に捨てぬこと」といふのがあつた。これも、豫め、捨てないやうに、生活形式を誘致して置くことが必要である。その切り屑を入れる籠なり箱なりが用意されず、用意されても便利のところに置かれず、といつたことでは無

理であらう。勿論之れ亦、その用意があつたとて、必ずそれに入れるとは限らず、家庭での仕来りで、散乱させることも多からうから、それは個人指導によるべきであるが、先づ、用意ある生活なしに訓練することは出来ない。

次に、此の月から「軽いお手傳ひ」といふ、極めて味のある訓練が始まる。これは訓練の多くが消極的項目なのに比して、積極的項目ともいふべきである。

幼稚園は幼児の社會的生活を一つの特色としてゐることは言ふまでもない。ところで、その社會的訓練なるものは、いろいろの要素をもつてゐるが、生活が社會的に整理せられることを一般の通念としてゐる。之れも大切なことであるのは勿論であるが、社會的といふことは、社會的整理だけでは決してない。それよりも寧ろ、社會的に生活することの内部的意義があることも忘れてはならない。「お手傳ひ」もその一つである。

お手傳ひは、社會生活の中で、その生活の一部に参加してゆく初めである。社會的生活の整理に服従してゆくだけでなく、進入で参加してゆくのである。お手傳ひであるから、まだ、獨立した一任務の擔任ではない。が然し、お手傳ひには、してもいなくともいいことに、自ら進んでゆくといふ、妙味が動いてゐる。義務とか責務とかいふことよりも其の社會的意義は軽いが、それだけに自ら進んで参加してゆくといふ個人的、社會心の訓練としては意義が深い。殊に愉快なことは(訓練は苦しい)ことのやうにのみ思はれてゐるのは一般としても誤りであるが)お手傳ひといふこと

は、幼児にとつて、元來が可憐な誇りでもあり、無邪氣な喜びでもあることである。

「軽いお手傳ひ」の一つとして、お辨當の時の手傳ひが擧げてゐる。之れは、子どもの幼稚園生活中、最も現實味の多い場合であつて、お手傳ひする方も、お手傳ひによつて受くる方も、ほんとうに心持ちの籠ることである。どうも訓練が、訓練のための訓練になり易かつたり、従つて形式的のことに勝ちなのは、往々免れ難いことであるが、お辨當といつた場合、それは充分に此の弊から免れ得るであらう。それに、もう一つの長點としては、お茶碗配りにしても、お盆ならべにしても、多少年長になつてからお湯つぎにしても、それは、どこまでも直接實際の結果の伴ふことで、所謂實際訓練になる。モンテッソーリ方法の中などから盛に引用された實際訓練の教育効果が含まれるのである。

お手傳ひの機會としてのみでなく、お辨當の食べ方の訓練が此の月から始められてゐる。之れは、家庭生活の繼續で、家庭で既によく訓練せられてゐる子には、極くくだらかに行はれてゆくが、實際としては、多くが仲々手のかかることである。家庭での生活訓練の不充分な、つくぐと思はせられたりすることが稀でない。

さて、食事訓練は、單なる行儀の他に衛生訓練として重要な事であるのは言を俟たない。「よく噛むこと」といふ如きその一つである。これは是非しつかり訓練したい。それには、咀嚼運動の訓

練が第一であるが、食事中お湯の呑み方も注意を要するし、殊に御飯とおかずとの順々な喰べ方も必要な注意であらう。一體に斯うした訓練は、我國の近來ではおどなにも甚しく缺けてゐる。

食事中の話あひに就ては、いろ／＼の説があり、絶對にだまつてゐるのがいゝとされることさへあるが、それも會食としてせうであらうか。寧ろ適當に話あふのもいゝと思ふが、それ故にこそ訓練があるのである。「食物が口にある間は話をせぬこと」といふのも、其の一つである。之れさへ守られれば、大體楽しく話あひつゝ、食事が出来る筈である。

「こぼさぬ」といふのは、初めの中は多少むづかしい要求かも知れないが、お辨當の時こそは可なり強い訓練を要求していゝであらう。それは、食事といふ、本能さへ加はつてゐる具體の生活、楽しい生活であるから、こういふ時にこそ、形式を形式として要求してゆく場合の如き無理は滅多に起らないからである。それに我國の家庭生活では、食事の訓練が甚だしつかり行はれてゐない。ほとんど皆粗野といつていゝ位である。幼稚園ではしつかり、小さい紳士淑女として食事させたい。他の時間、遊んでる時、仕事をしてゐる時は、そんなに紳士淑女主義を重んじやうとは思はない。時には相當の野ばん性も許されていゝことかどさへ思ふ。だからこそ食事の時は、しつかり作法的であつてほしい。先づ手を洗ひ、靜に座し、手を膝に置き、暫らくは沈黙もし、「兵隊さん有り難うございます」でも、「いたゞきます」でもいゝから食前の感謝を一齊に唱へて、靜かにしかし楽しく、品位よく食事する。お辨當の時間だけは決して粗野下品野ばんであつてはならない。決し

てならない。

自由遊戯

上遠文子

空は青天井。爽やかな風が子供達の裾をゆるがす五月となりました。年少組の子供達も大分幼稚園の生活に馴れて來、入りまじつてお庭の中を駆けまわつてゐます。何と云つても此自然の中で、日光を浴びつゝ戸外あそびの日に／＼盛になる時でありませう。お家の中でくすぶつてゐる子供達も、お日様がにこ／＼と、待つてゐて下さる戸外へ誘ひ出させよう。一杯に日光を浴びて好い空気を吸つて、すく／＼伸びる子供達の體の中には健康の血が駆け廻る事せう。

さくら／＼ 昔から、童歌や琴歌として、日本特有のこの歌も、今でも尙、子供達の間で歌はれてゐる。二人で綺麗な櫻のトンネルを作りませう。その二人は先に、地獄、極樂をきめ、又何が好きなもの、りんごでも梨でも好い、きめておく。

さくら／＼

やよひの空をば

みわたす かぎり

いざや／＼もろどもに

うめには驚、ほうほけきよ。

この歌を歌ひつゝ他の人はこのトンネルをぐる／＼まはりつゝくぐる。「ほうほけきよ」でそのトンネルをおろし、その時トンネ